

平成 25 年度まちづくり懇談会会議録【小笠南地区】

日 時 平成 25 年 10 月 28 日 19:00~20:12
会 場 小笠南コミュニティセンター
参加者 88 人

「菊川市の危機管理体制と地域防災計画について」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

会場からのご意見・ご質問

河東：男性

伊豆大島で災害が起こった。ニュースで聞くところだが、その防災対策は夕方 5 時に解散し、夜、集合すると決めたらしく、夜間は職員がおらず、保安員だけで、都から緊急 F A X が届いたが、そのときは誰もいなかった。集合時間に集まってきたときは、避難を出すような状況になっていたというが、夜間に避難を出すのは危険だといって避難の対策をとらなかったという。それは何もしなかったことと一緒に思う。災害対策の場合、先ほどの説明で、避難指示、勧告、自分の身を守るという 3 段階の対策があると聞いた。それを指示してもらうには市の職員が常時、緊張感を持っていなければ、住民ではわからない。雨量予測が災害発生しやすい 50mm とか 80mm とか降るというニュースは、県などの広域でなければ勧告は出ないため、地域が限定していた大島は出なかったという。そういったことは住民では判断できない。ノウハウについて説明があったが、それは見づらいというか、目に見えないから不安がある。その点はどうか。

危機管理部長からの回答

資料の中で、市の対応について説明させていただいた。大雨警報が発令したときは安全課、支所の職員が出ていると説明したが、警報が出ている間は職員が出て、先週の大雨のときもそうだったが、雨雲、水位など絶えず監視していた。3 段階の対応があると説明したが、必要に応じて避難勧告を適切に出すこととなっている。大島とは少し対応が違うので、安心していただきたい。

：男性

UPZ という原子力災害の危険区域の 10 km 圏内に入っている。中部電力は必死になって地震対策に対応しており、その状況も視察した。しかし、もし原

子力事故が起こった場合、長野県の方に避難をするといっていたが、中電が実施した工事が耐えられないような地震の場合には、長野県に通じる道路も相当被害を受けると思う。地震では身を守ったが、原子力災害で避難地に行く方法、道路状況がわからない。自家用車で逃げろということだが、どこへどうやっていくのか、避難行動を住民だけに任せては大混乱が発生して避難がうまくいかないと思うが、広域的な道路の安全確認、避難をスムーズにできるような対策は考えられているのか。

安全課長からの回答

広域避難計画の中身の部分についてですが、これだけ広域の85万人が一度に避難しようとするれば大混乱になる。どのルートを災害用のルートと設定するか。それは国、県が今、広域避難計画のなかで検討している。我々はそういった中でその研究会で話を聞き、本当にこれで市民が大丈夫なのかということをお話させていただく。そういったことを研究会で取り組んでいる。県が改めて示した段階でお話をさせていただきたい。

河東西：男性

情報伝達手段の強化で、実際に台風が来ているときに東北で地震があった。ここの地域ではなかったが、実際に住民に知らせるのは、同報無線、巡回ということだが、緊急エリアメールがあるという。実際に個人に知らせるのは携帯電話だと思う。エリアメールを周知し、こうすれば使えるようになるという講習とか、やっていただけないか。

危機管理部長からの回答

エリアメールは一方的に一定の地域にいらっしゃる方に発信する。震度5以上が予想される場合などに発信するもので、皆さんとやりとりするものではありません。同報無線も老朽化、聞こえが悪いなどあるので、メールを使った情報発信も考えていきたいので、できましたらご案内します。

高橋口：男性

カタカナ言葉やUPZなど分かりにくいので、広報紙のように中学生レベルに併せ、わかりやすい言葉に置き換えることを検討していただきたい。

秘書広報課長からの回答

できるだけわかりやすい言葉に改めていきます。
(閉会：20:12)